

## 令和 4 年度第二回産業衛生技術部会拡大幹事会 議事録

日時：令和 4 年（2022 年）9 月 30 日（金）12:15～13:30

場所：札幌コンベンションセンター201 会議室 および ZOOM でのオンライン開催

参加者：[事務局] 橋本晴男, 山野優子, 中原浩彦, 齊藤宏之, 中村憲司, 飯田裕貴子, 中村修, 宮内博幸, 原 邦夫(\*), [幹事] 池田和博, 相澤和幸, 森 洋, 河合直樹(\*), 伊藤昭好(\*), 田畑正司, 田村三樹夫(\*), 榊原洋子, 中元健吾(\*), 伊藤由起(\*), 東 賢一, 田口豊郁(\*), 浜井盟子(\*), 保利 一, 大藪貴子(\*), [企画運営委員] 大久保茂子(\*), 川上貴教, 貴志孝洋(\*), 對木博一, 津田洋子, 藤間俊彦, 山内武紀, [担当理事] 土肥誠太郎, 上島通浩  
(\*はオンライン参加)

1. 前回議事録の確認が行われた。不明箇所の指摘点を修正し、議事録の確定とした。
2. 第 96 回学会（宇都宮）の企画についての説明がなされ、承認された。
3. 第 33 回全国協議会（甲府）の企画についての説明がなされた。このうち、専門研修会については北陸甲信越地方会選出の幹事の先生方を中心に企画を検討することとなったが、一方で地方会所属の部会員が手薄であることから、事務局と連絡を取りながら企画を検討することとした。
4. 部会からの報告事項として、ANOH の団体会員登録、化学物質管理に関する外部との協力、国大協からの協力要請についての報告がなされた。
5. 担当理事からの報告事項として、土肥理事より報告がなされた。
  - 化学物質の自律的管理について、学会としても技術部会の関与について非常に期待を持っている旨、報告がなされた。
  - 学会員による学会活動についてはすべてボランティアとし、謝金等は出さない方向で検討していることが報告された。これについて、学会側から基準を示すことが重要との意見があり、今後引き続き学会理事会での動きを注視することとした。
6. 地方会からの報告事項として、東海地方会より 12/18 に研修会を企画していることが報告された。詳細が決まり次第、東海地方会 Web サイトに掲載する。また、北海道地方会から、今回の全国協議会への協力に対して感謝の意が示された。
7. OHTA 資料の翻訳作業の進め方について、中原副部長より報告がなされた。
  - 現在、OHTA 及び学会側の了解を得た上で、初級版の資料について AI 翻訳を用いた仮訳と、それに対する修正を行った和訳版を進めている旨、報告があった。
  - AI 翻訳に対する修正については、まずは拡大幹事会メンバーから有志を募って分担することとなった。当面、年内完成を目指し、10 月末に第一回目の進捗状況の確認を行いたい。
  - OHTA 資料が更新された場合は、その都度翻訳版も更新する必要が生じるが、OHTA 資料の更新スケジュールは必ずしも明白にはなっていない旨、説明があった。
  - 和訳版は OHTA の Web サイトへの掲載がなされるが、それとは別に学会員・部会員へのメリットを享受できるように、OHTA Web サイト以外の方法での資料提供を検討する。
  - OHTA 資料は、5 日講習を前提にして作られている。有償で 5 日間教育を行うことは可能であり、実際に AIHA など実施している。その場合、OHTA 側から認証されたプロバイダーとなる必要がある。
  - 今後の AI 翻訳の契約については、月額 88,000 円（10 ID）である。予算との絡みもあるため、要検討。
8. 予算案ならびに期末残高の見込みについての説明が齊藤事務局長よりなされた。
  - 2021 年度の期末残高は 281 万円、2021 年度は 230 万円の見込み（AI 翻訳を 10～2 月契約の場合）。
  - 2023 年度～2024 年度に AI 翻訳を年間契約した場合、2023 年度末で 92 万円、2024 年度末の期末残高は 40 万円程度と、2024 年度末に適正化レベルとなる。
  - 予算の適正化という意味では AI 翻訳の年間契約は有効だが、その一方で本当に年間契約が必要なのかどうか、必要な期間のみの契約に留めるべきではないかとの指摘があった。
  - 一方で、本来であれば翻訳が必要な資料に対して、翻訳の見積もりを行うべきところ、AI 翻訳の定期契約ということで予算化がしやすくなっているというメリットもある。
  - 仮に年間契約を行わない場合、想定された期末残高の縮減がなされないという問題が生じる。これについては残予算の学会への返納の可否や、どの段階までに期末残高の適正化が必要か等を含め、要検討とされた。
  - 学会員向けの印刷物を作成することも検討すべきとの意見があった。
  - 来年度予算案の提出期限が 11 月末のため、事務局にて早急に実施案ならびに予算案を作成し、メー

ルにて審議することとした。併せて、学会側に残予算の返納の可否および、期末残高適正化のタイムリミットについて確認する。

9. 学会員・部会員がメリットを感じられる活動についての議論が行われた。企画運営委員会にて検討した内容についての紹介が行われ、当面は下記について検討することとした。
  - 部会行事， 地方会行事等の参加費についての差別化を検討する。
  - 部会員専用の交流・議論スペースとして， Facebook に部会員専用プライベートグループを開設する。まずは拡大幹事会メンバーにて試用し， 問題がなければ来年の総会にて報告し， 本運用とする方向で検討する。
  - 部会主催行事の資料について， 一般公開資料と部会員限定資料を分けることを検討する。会員向けに早期公開とすることも一考。成果の社会還元と， 会員へのメリットを考慮する必要がある。
10. 今後の部会主催行事の企画案について， 来年5月の拡大幹事会にて各自で案を持ち寄った上で議論することが了承された。
11. 研究奨励賞候補者， 大久保利晃産業保健研究奨励金の候補者， ならびに酒井 CHS 振興財団研究助成の候補者の推薦についての依頼がなされた。

以上。